『この男と出会わなければ…』
光の道を歩むはずだった美しい少女は
男の手によって
変態へと生まれ変わる
とある足フェチエゴマゾの策謀
さくぼう

とある足フェチ
ミマゾの策謀
さくぼう

ぼくは
ロ●コンで
フェチマゾで…

とにかく…
変態だ

いろいろと
経験してみたが

『大人』が相手では
どこか…心の底から
満足できなかった…

そしてよくわかった

ぼくは…
まだ純粋で無垢な少女を…

ぼくの理想を叶える
『変態』に育てたいのだ―…

それしかない

それしかない
それしかない

次第に強い想いへと
変わっていく

身勝手な
ぼくの欲望で

少女の心を
黒く塗りつぶす

完璧な少女を…
『作る』!!

これは…
人の道から堕ちた
悲しき倒錯男
とうさくおとこ
そして
その餌食となる
とある少女の物語
人と人との出会い
『縁』
運命はわずかなすれ違いで
別の歯車を回し始める
別の世界線では
光の道を歩いたはずの
美しき少女…
もし…この男と
出会わなければ…

そしてある日…
男は少女と運命的な出会いをはたす

清らかな透明感

涼しげに風になびく絹糸のような黒髪

美しい翡翠色の瞳

目があった瞬間
心臓が…

素手で掴まれたようなおかしな鼓動を打った

どうやら何か困っている様子

チャンス

ぼくは思わず声をかける

?

これ以上無いくらい必死で話しかけた

あまりに必死なので引かれると思ったが

……!!

……!!

汗

くすッ♪ お兄さん…

面白い人…♪

彼女は笑った

聞けば慣れぬ土地で道に迷い

さらに財布も落とし途方に暮れているという

わずかなお小遣いで一緒に食事へと誘う

これって援交？

そう言って少女は目を丸くさせた

とにかく
彼女に喜んでもらうためにショッピング
キラ
キラ

美味しい食事
そしてなにより…

困った時に手を差し伸べてくれた
親切な人
その印象が少女の警戒心を薄れさせた

楽しい時間に
次第に空気もやわらかくなる
談笑の合間のHな話にも―…

トクン
へえ Mなんだ…
ちょっと興味あるかも

…と好奇心に目を輝かせた
キラ
キラ

大人の時間に気を良くした彼女と
カラオケへ

二人っきりになれる個室だ

少女の名前は『渋■凛』

♪

♫

♪

しかし なんて綺麗な 歌声なんだ

不思議なコだ 知らない男と こんなに付き合って くれるなんて―…

遊んでそうにも 見えないが

彼女も『何か』に『飢えている』のだろうか…？

そういえば… 確かにその美しい 透明感の中に

どこか寂しい気配を 漂わせる瞬間がある

先程見せた 好奇心といい

ぼくの『理想』を叶える 最高の素材だ

その美しい姿と声 アイドルにだって なれそうだ

しかし―… この娘はぼくが絶対 手に入れてみせる

頃合いを見て…

あ…あの…

もし…君が嫌じゃなければ…

気持ち悪がられ台無しにならぬよう

彼女の事を尊重しながら極めて慎重に…

さっき話したぼくがマゾって話

そのせいでずっと苦しくて…

ぼくを助けると思って…優しい君になら…

どんな感覚か知りたくない？

ぼくは彼女にお願いをする

たっぷりと興味と自尊心をくすぐりながら…

我ながら最高の説得

しばしの沈黙…
彼女は少し考えた後
ドキ
ドキ
ドキ
複雑な表情で
いいよ
とだけ答えた
そして彼女は
ゆっくりと靴を脱ぎ…
トクン
トグ
トグ
スッ
テーブルの上に
『それ』は姿を現した
ドド
ドド
トン

汗で湿ったつま先
モワ
じっとり
テーブルが曇る
足元に横になる
じゃ…目閉じて…
ああ…
みっちり
ん
むッ…ぅ!!
思ったより
ぐっと体重が来る
両足で呼吸の
穴が塞がれる
ずし
あ
ぐぐ
ああ…熱い
あ

少女の濃い匂いが鼻腔を直撃する

スゥー スゥー

ムギュ

おぉお…♥

至福満ち足りた瞬間

くぱぁ♥

それに比べて少女…

ささやかな好奇心だった

マゾの顔を踏むという異常行為

ドキン ドキン ドキン ドキン ドキン

はあ はあ はあ はあ

ぷに

スゥー スゥー

初めての経験に息が乱れる

カァーッ

はあ はあ

ドクン

紅潮する頬

さらに足汗が…

ジワ…

今までローファーに
包まれていた足

蒸れて
しっとりと湿った
靴下の奥から

わずかに酸味を
感じる足の匂い

スーハー

鼻からたっぷり
脳へ送り込む

うわばき
廊下
革
制汗剤？

少女の熱く
燃えたぎる足裏

学校の匂い
青春の香り

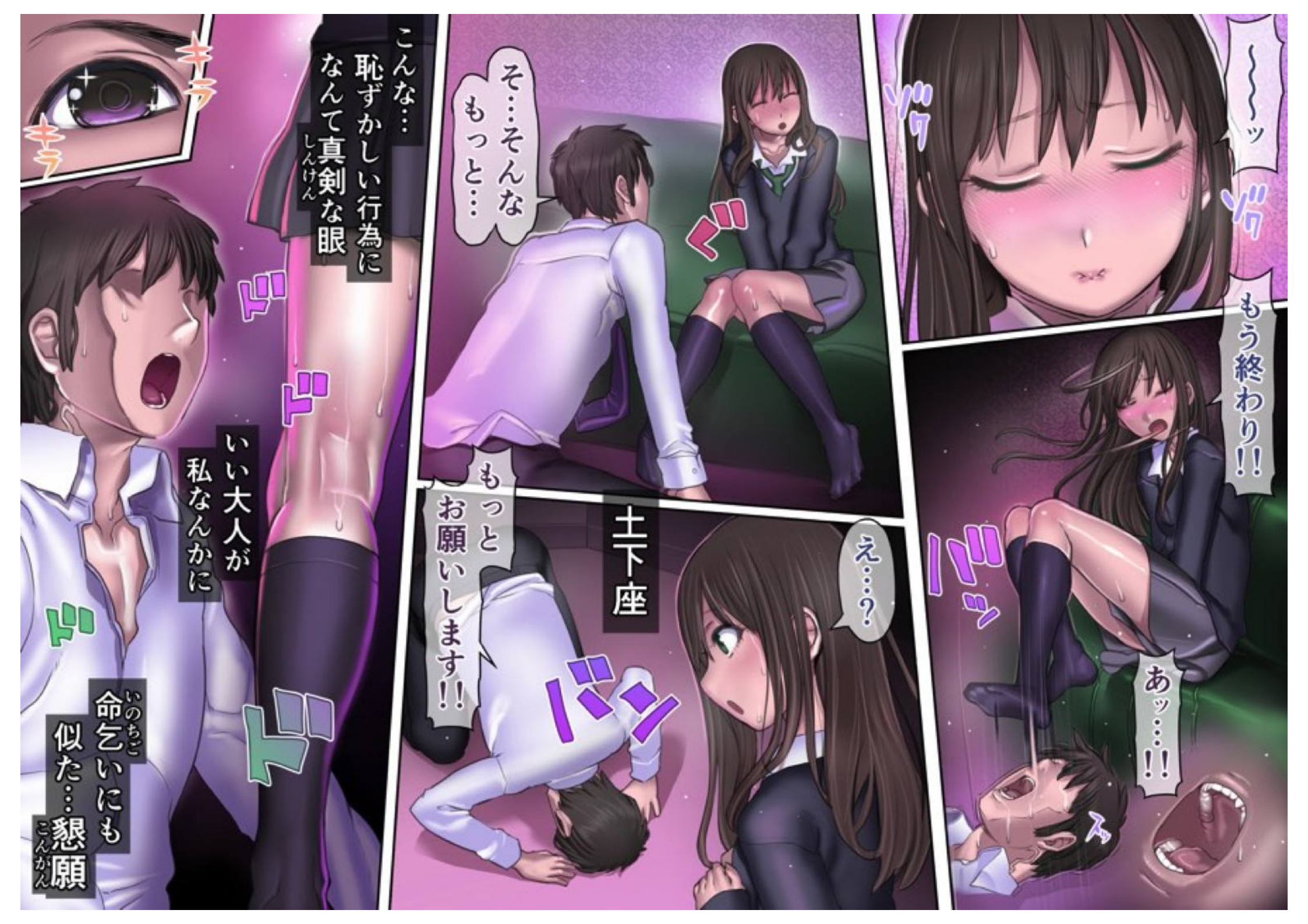
すぅっ
はっ
はッ
はッ
はッ
はぁ
はあッ

ああ…
最高だ…

トロン

欲しい
もっと

ああ…
もっと
欲しい


～～ッ
ゾワ
ゾワ
もう終わり!!
あッ…!!
バッ
ぐ
そ…そんなもっと…
土下座
もっとお願いします!!
え…?
バン
こんな…恥ずかしい行為になんて真剣な眼
キラ
キラ
ド
ド
ド
ド
ド
いい大人が私なんかに
命乞いにも似た…懇願

生まれて初めての体験

自分が与える『何か』をここまで強く求められる

トクン

トクン

トクン

あ…頭を上げてよッ…

ゾクッ

ゾクッ

空虚な心の隙間に謎の高揚感が満ちていく

はあ

はあ

そ…そうだッ…

失礼かもだけど…

美しい君に…お願いするには

こんな方法しか…

ガサ

これッ…

ドクン

金

それを見た瞬間…凛の胸をじくりと黒い鼓動が打つ

金…それは最もわかりやすい評価の基準

プルプル

けっして安くはない金額

この子をこちらへ引き込むためには惜しくない

〜〜〜〜ッ!!

少女の顔色が変わる

トクン

トクン

トクン

トクン

トクン

ぜひ…ぜひ裸足で…

もう…

明らかに高くつけられた自分の価値

悪い気はしない

むしろ…

はあ

はあ

はあ

スゥ

スゥ

出た

熱っつ…興奮で

蒸れ蒸れ♥

ホカホカ

あ
あぁ…
バキ
はあ
はあ
はあ
バキ
バキ
恥ずかしさ
背徳感
はいとくかん
好奇心
こうきしん
バク
バク
バク
足と顔が近づいてく
彼女も目が離せないようだ
鳥肌
モゾ
ぷりっとした
ピンクの足指
しっとりと
汗の匂い
女の子独特の
甘い芳香
ほうこう
顔に近づけると
しっかりと感じられる
濃い熱と存在感
こ
いぃ♥
ああ…指先にまで
若さが詰まってる
ハリ・ツヤが全然違う
チュッ
いただきます…

吸う

チュ

おお…

おお

おお♥

指の股からつま先

舌で貪るように

はっ

はっ

くすぐったいような刺激

ぞくっ

んッ…

ぞくっ

キュ

のけぞる

舌で貪るように

ぬ

お尽くしする

もどかしい感覚が少女を襲う

ハァー

ハァー

優越感とくすぐったさ

ぞくぞく

ぞくぞく

性の倒錯が

ブキ

ブキ

ブキ

混ざり合って性器に響く

ブルッ

ヒク

ヒク

全身を硬直させて耐える少女

はッ

はッ

はあッ

はッ

チュ

チュ

チュ

頭と性器がズキズキする

じんわりと粘液を滴らせ

ズキ

ズキ

濡れるパンツ

トロォ

男の興奮も一線を超える

ごめん…もうッ

ドクン

ドクン

オレっ…

ビキィ

いキィ

モン

初めて目にする勃起した男性器

混乱

え？

えっ…

す…

すごい…

何…コレ？

足を味わいながら
性器を激しく
しごく
一心不乱に
しごく
しごく
その淫らな動きが
少女の目に映る
それを
あえて
見せる
見ろ♪
見ろ♪
自身の体が
その魅力が
男に性の興奮を
与えている
女の喜びを覚えろ

はッ はッ はあ
わたし…
何か…
はあッ
何か変ッ…
ズキン
ズキン
キュン
キュン
キュン
まっさらな脳にこの異常な経験が
強烈な刺激として焼きつけられていく
焼く
焼く
ズキン
ズキン
しごかれるチ○ポから放たれる精子の濃い臭い
モワァ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
チュク
チュク
チュク
独特のこの臭いが本能を高ぶらせる
それが女の『何か』を目覚めさせる
ニュチュ
チュ
ンチュ
学習
脳回路がつながっていく

そしてついに！…
いくッ！！
え？
いくッ！！
えッ？！
はッ…！！
すはッ…
すッ…はッ！！
いくうッ！！
発射
お
うお
キャッ…！！
お
お
はあッ
はあッ
はあッ
す…
おッ！！
発射
発射
スゴ…

夜ー…

少女の自宅

お風呂上がりに
ひとり…

……

ホカ
ホカ

今日の特殊な
出来事を思い出す

あの時ー…
私のアソコ…

すごく…

ズキズキ
疼(うず)いて…

キュウン

スル

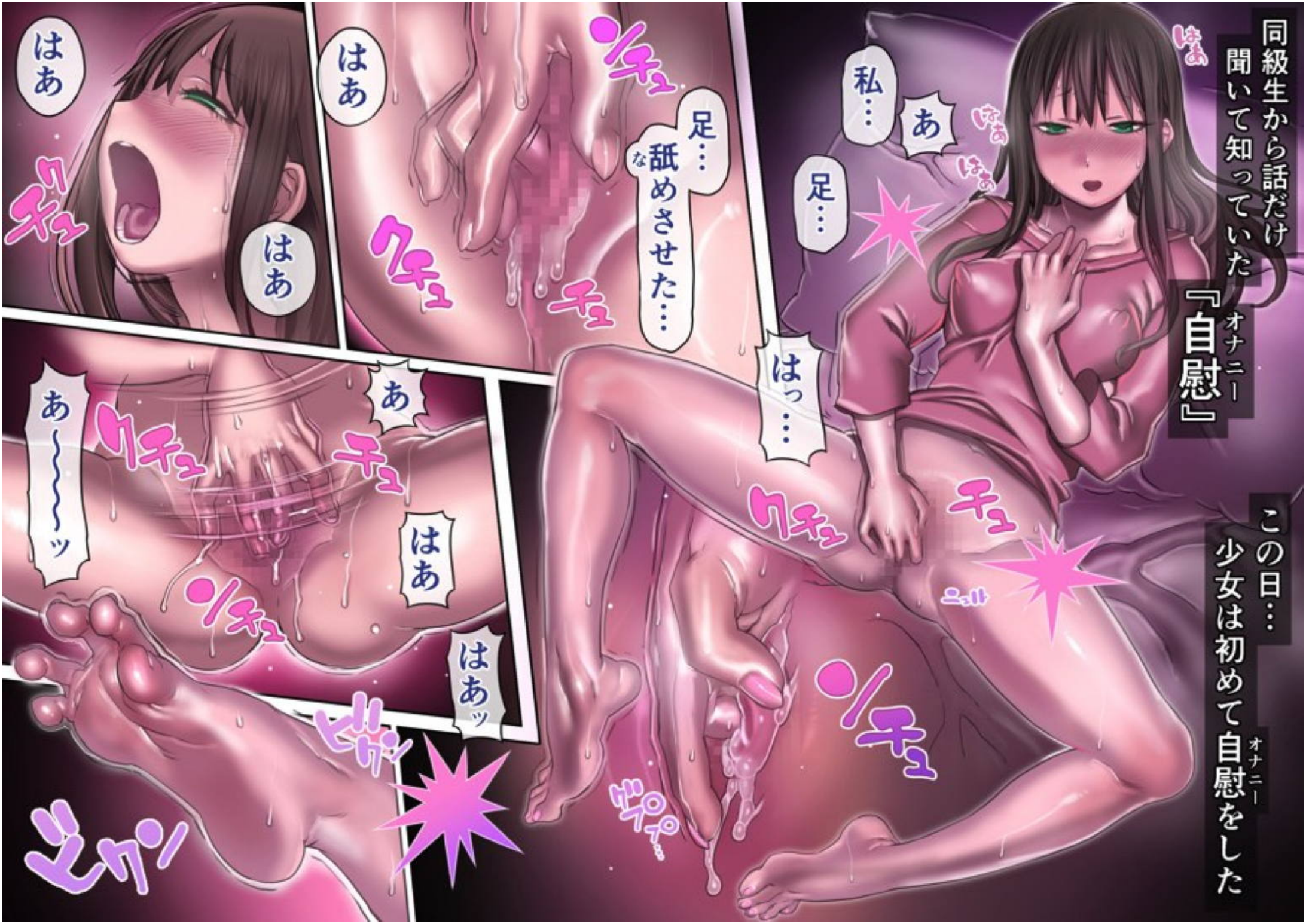
あ

あ

あっ…

ツプ

あ♥


同級生から話だけ聞いて知っていた『自慰(オナニー)』
この日…少女は初めて自慰(オナニー)をした
はあ
はあ
はあ
私…
あ
足…
はっ…
足…舐(な)めさせた…
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあッ
あ
あ〜〜〜ッ
クチュ
チュ
ニュル
グプッ
ビリッ
ビクン

うあ
チュチュチュ
あ
あッ
ジュ
ジュ
あんなに気持ち良さそうに
しごいて
しごいて…
あれ…凄かったな…
ドクン
ドクン
はあ
はあ
はあ
なんだか…心が…
モン
変になる臭いがして…
あッ
私の足に感激してた
私にすごく感謝しながら…
はあッ
喜んでた
ふ――ッ
ふ――ッ
ちゅっ
ちゅく
ちゅくっ
くちゅ
どぴゅ
精子出してた

んッ…
う
イクッ!!
イク!!
イク!!
イク!!
おッ
ビク
ビク
ビュク
ビク
イクッ!!
イク!!
おっ…
絶頂
これッ…
やばッ…
チカ
チカ
ふう
ぐっ
男の従属
忠誠
そして
金
ぐふっ
キュッ
キュッ
お
はあ
はあ
はあ
なにより
自身の魅力で
吐精へと導く
女の悦び
本能が
ふるえる
ズクン
ズクン
ズクン

退屈で空虚な
自分が消えていく
はあ
はあ
はあ
はあ
心の『何か』が
満ち足りる
少女の性の目覚めは
歪な形で開花を始めた
ピリリリ…
……
画面を眺める顔
妖しい微笑み
あなたにまた
会いたいです
『夜』は深まっていく

それから
ふたりは―…
逢瀬を重ねる

唾
唾

繰り返される
倒錯行為

自慰
自慰

あ
あ

淫部を
めちゃくちゃに
かきむしる

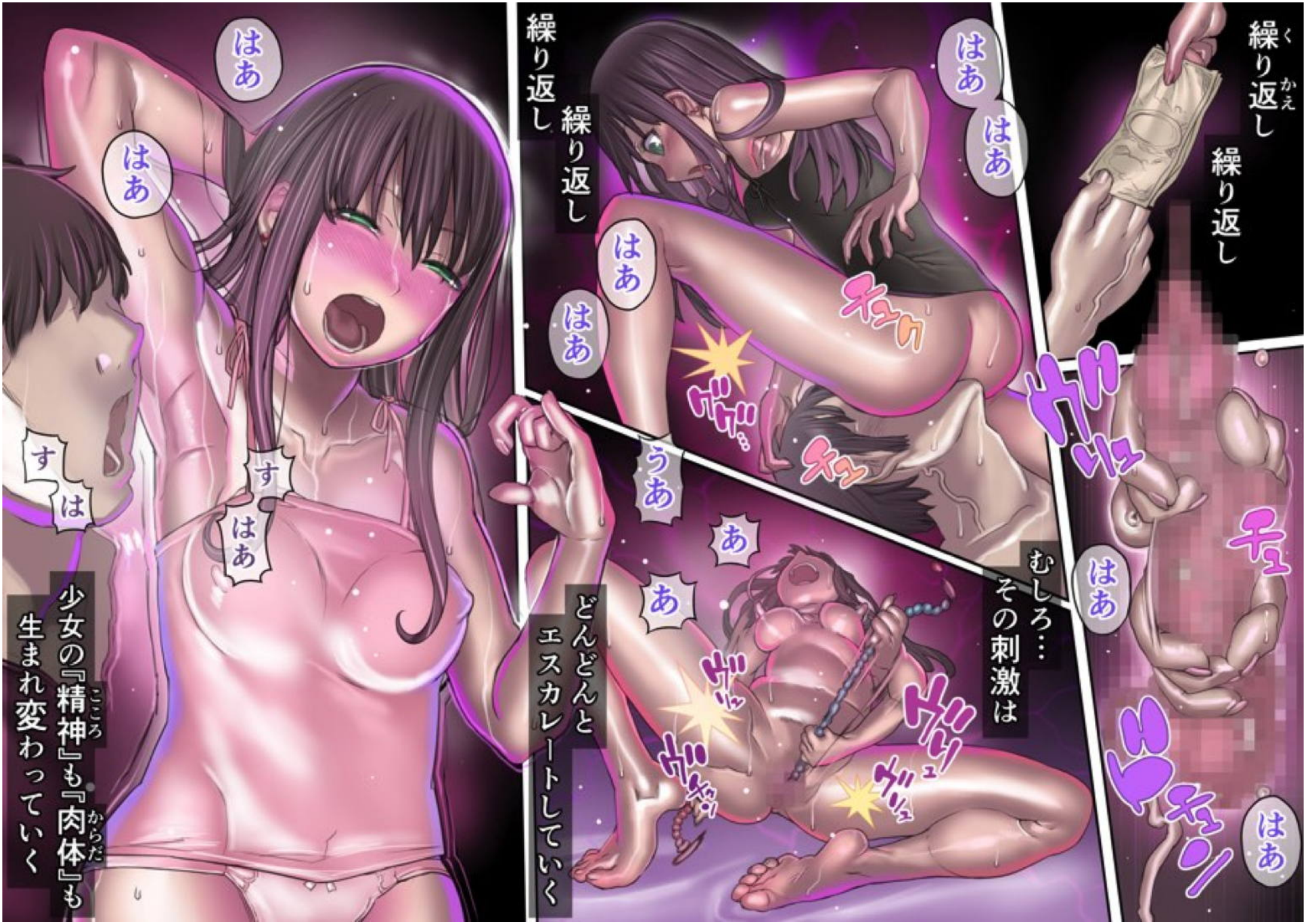
快感

そして
その度に
与えられる
感謝
貢物

興奮が脳を焼く

変態行為への
抵抗が薄れていく

あ
あ
あ


繰り返し
繰り返し
はあ
はあ
チュ
チュ
はあ
はあ
はあ
はあ
繰り返し
繰り返し
はあ
はあ
チュ
チュ
ゲゲ…
ゲゲ
ゲゲ
ゲゲ
ゲゲ
ゲゲ
むしろ…
その刺激は
うあ
あ
あ
どんどんと
エスカレートしていく
はあ
はあ
すはあ
すはあ
少女の『精神』も『肉体』も
生まれ変わっていく

う〜〜〜ッ
あ〜〜〜ッ
ジク
ジク
ちゅ
ちゅ
ジク
幾多の行為を経て
少女のわきから
出る臭いは
完全にメスの味

はッ
はふッ
はふ
ちゅ
はあ
ちゅ
ちゅ
ぞく
ぞく
ぞく
ぞく
ぞく
〜〜〜ッ!!

ズキ
ズキ
ズキ
ちゅ
あッ
あ
ズキ
はふッ

攻める
攻める
もっと
変態になれ

もはや
少女は性の虜
とりこ

頭が良く…
好奇心(こうきしん)が強い彼女

次第に自分の
力で走り始める
学習

映像の中で
繰り広げられる光景

倒錯(とうさく)
服従
愛
暴力
破壊
支配

脳に凶悪な刺激が
植え付けられていく

スポンジに水が
染み込むように

はぁ
はぁ
ゴ
ゴ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
変貌
へんぼう

『跪け』
はい!!
『舐めろ』
はいッ!!
もはや彼女の表情は
以前のそれでは無くなっていた

時は過ぎて…

とあるラブホテル

そこにはー…

黒革に身を包んだ少女と男の姿がー…

はあはあ

はあ

ギュウゥ

ぷッ!!

唾(つば)

ゴミッ

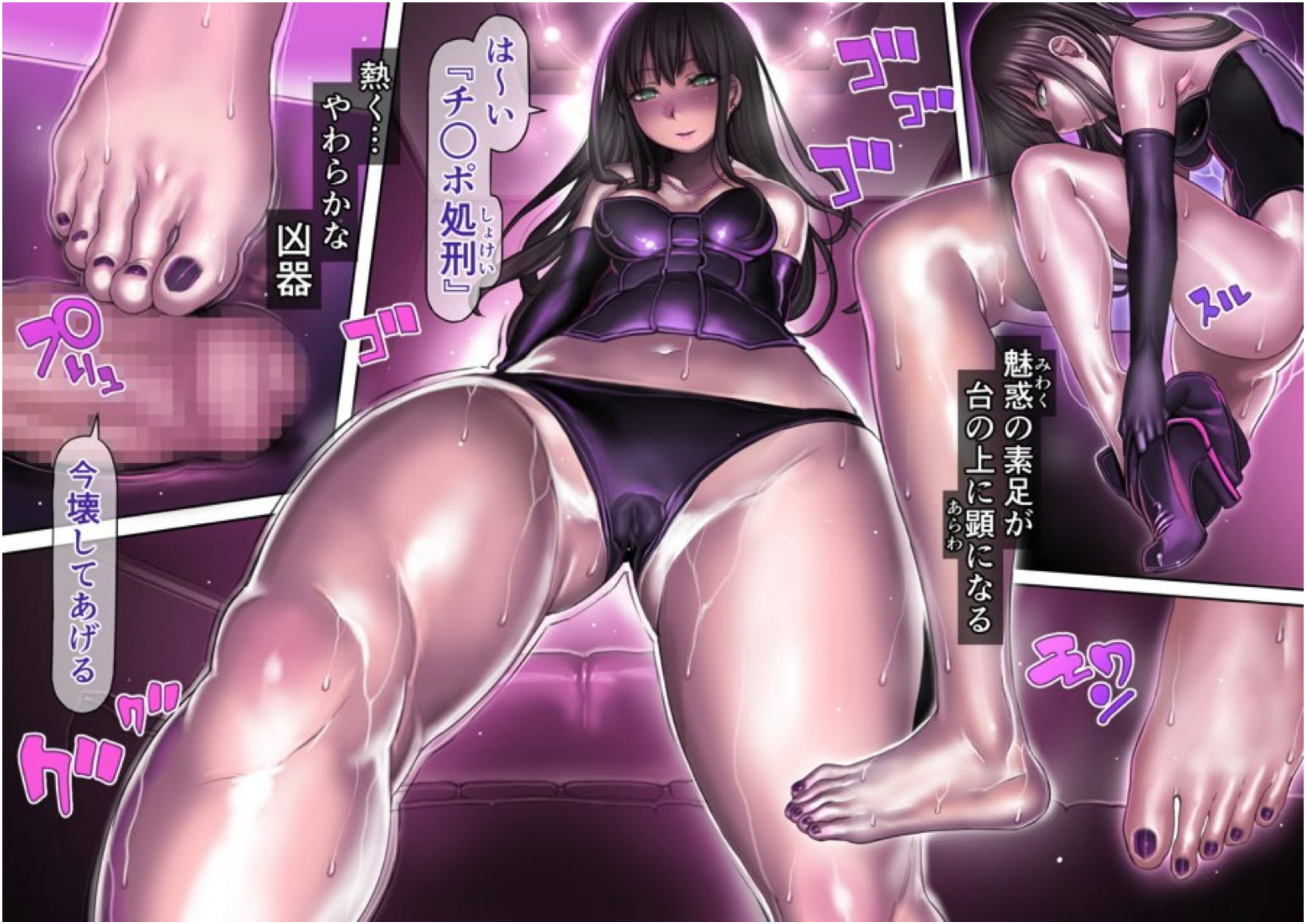
クズッ

キモい

死ね

罵声(ばせい)

ああ…素晴らしい
ゴゴゴ
すっかり支配者の顔
そんな彼女に平伏し懇願する
凛様…お願いします
ぼくのチ〇ポを踏み潰して…
あなたの足でしかイケない体に教育して下さい
はいッ…!!
はあ
はあ
ぞく
ぞく
ぞく
ぞく
じゃあ…出して…
はあ
スチャ


魅惑の素足が台の上に顕になる
ゴゴゴゴ
スル
は～い『チ○ポ処刑』
熱く…やわらかな凶器
ゴ
プリュ
今壊してあげる
グ
グ
グ
ヌワン

くすくす♪

ぐぢゅ

『チ○ポ処刑』ー…

それは僕と彼女の最高の絆

彼女の『足』の強烈な一撃でイクように慣らし

みちゃ

彼女の足でしかイケないようにするトレーニング

愛しています!!

愛しています!!

男の一生を捧げる行為

男の一生を奪い支配する行為

ぐぐぐ

愛しています!!

愛してます!!

ふたりの快感が交錯する

いくよッ!!

はいッ!!

『断種』の危険がある行為ー…

そして…

少女は容赦なく振り上げて…

ヒュ

ブン

踏み…

潰す!!

ビキ

ビキ

あ!!

うぐ

ビキ

ブチュ

ブチュ

凶悪な一撃に

ビュ

ビュ

ビュ

噴(ふ)き上がる精子

踏むッ
踏む
凄まじい威力に
噴出
決壊
絶頂
『連続処刑』
踏むッ
踏む
ドカン
ドカン
ドカン

ほっ
ほぉ
ほ
ビクン
ビクン
お
お
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
ほら
掃除
う
う…
う
ゾク
ゾク
ゾク
ぐ
は…
はいィ…
あぁ…
凛様ぁ♥
フキ
フキ
愛しています
愛しています…

はあ
はあ
きれいに
きれいに
はあ
足を拭き
終えると
チュ♥
チュ♥
男は丁寧に
キスをする
ふぅ〜〜〜ッ
はあ
うぅ〜〜〜ッ
はあ
異常快感の連続
処女膜の奥に
蓄積された
ストレスが
膣内で
暴れまわる
ズキュン♥
ズキュン♥
ズキュン♥
ズキュン♥
ズキュン
ズキュン
はあ
はあ
くう〜〜〜
ビクン
う〜〜〜ッ
ビクン

未開通の性器(マ○コ)にせつない鬱憤(うっぷん)がたまる

マゾ支配と性倒錯(へんたいこうい)を繰り返し

たまりに溜まった快楽のエネルギー

この膣(なか)に『何か』が欲しい!!

かきむしりたい!!

淫核(クリト○ス)を滅茶苦茶に潰(つぶ)したい!!

ムラ

ムラ

ズキ

ズキ

ズキ

はち切れそうなほどの欲求不満

ああ…!!

うぁぁ

これはいけないッ!!

『お尽くし』しなければ…!!

あッ…

え?

レギィ

ぬぬぬ

あ!!

カ♀

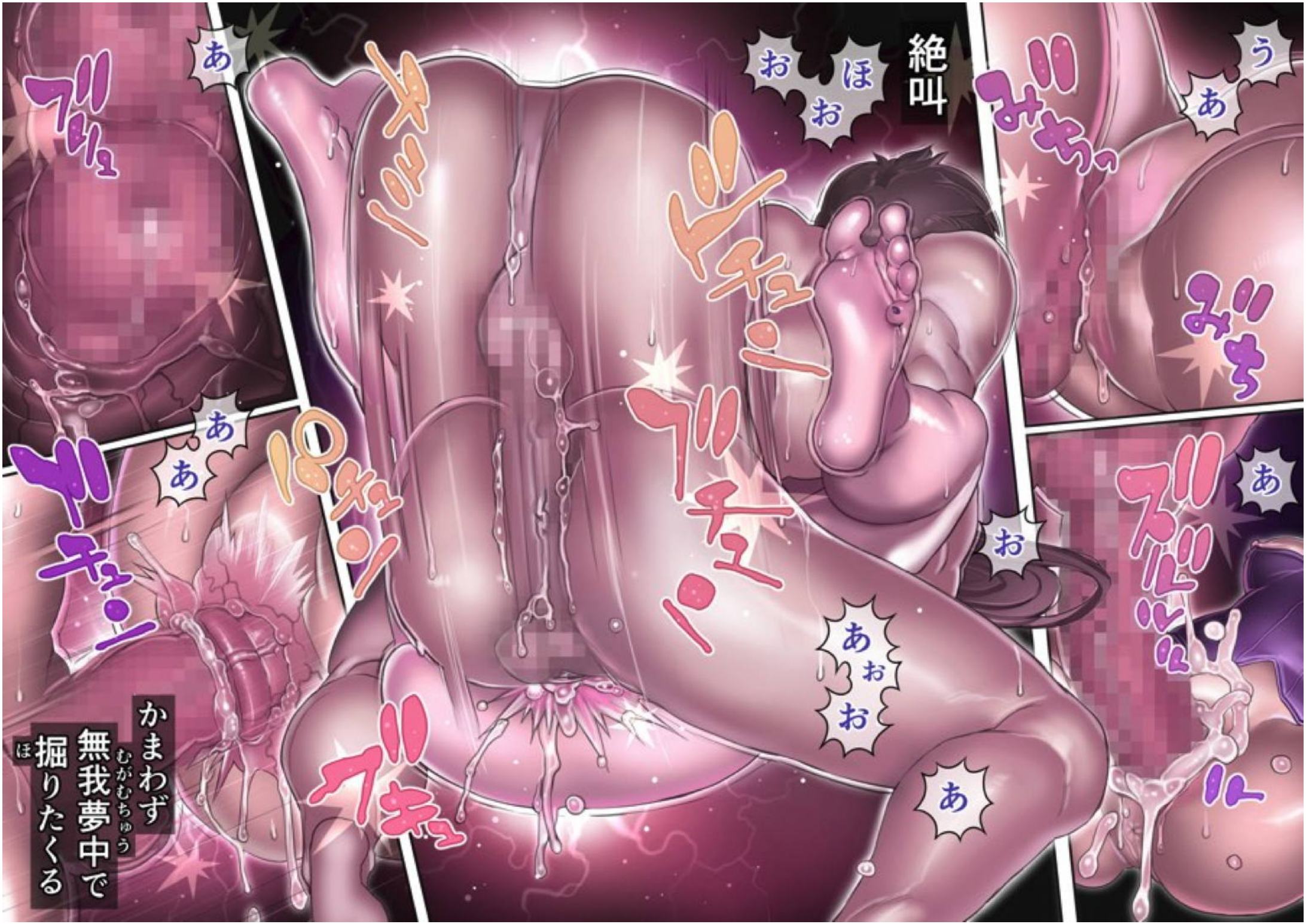
あ

うッ…

や…やめッ…

あうあ
あ!!
あ
あぁ
あ
あ
ん!!
ぐう
あ!!
あ
はッ
はッ
はッ
はッ
『何か』を欲しいと…
とめどなく
蜜(みつ)があふれる

ん〜〜ッ
ん〜〜ッ
チュー
ズルル
凄まじい快感に身動きできない
はッ
はッ
ぞく
ぞく
ぞく
はッ
ビクンビクン
ビクンビクン
これはッ…良いよね？
はッ
欲しいよね？
はッ
はッ
チ○ポ欲しいよね？
入れるよ？
入れッ…
う
ネプッ
絶対気持ちいいから!!
絶対気持ち良くするから!!
ズズ
ズズ
嘘
嘘ッ…
やッ…
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
ブリブリ
挿入


絶叫
おほおお
あ
ぶりゅ
ぶちゅ
ぶちゅ
ぶちゅ
ぶちゅ
ぶちゅ
ぶちゅ
あ
あ
あ
あおお
あ
お
みちっ
みちっ
うあ
ぶるるる
あ
かまわず
無我夢中で
掘りたくる

はーッ!!
はーッ!!
はーッ!!
欲求不満な膣(マ○コ)に
淫核(クリト○ス)に一撃一撃
叩(たた)きつける
ぱん
ぱん
ぱん

あ
気持ッ…ッ…ち良いッ!!
あ
すごッ…ぎもぢ…イィい!!
すき!! 好きッ…そこ好きッ!!
ふたり猿のように腰を打ちつけ合う
ビキキ
あ
あ
あ
あ
チカ
チカ
あ
あ
脳汁(エンドルフィン)が噴(ふ)き出(だ)す
トリュ
チュ
う
あ
あ
あ
あ
あ

そしてついに…
あぁ!!精子くるッ!!
え!?
えっ!?
出るッ!!
え!?
出るッ!!
精子出るッ!!
ぶぐぐ
ぐぐ
ぶぐぐ
あ!!
くる
くる
あ!!
出る
出る
あ
ふぅ
ふぅ
出るッ!!
ヒュー
ヒュー
あ
あ
あ
どくん
どくん
ぴゅー
ぴゅー

大量射精
ビュ～～♥
ビュ～～
ん♥
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
みっちりと
肉体に埋めて…
ラブラブ
種付け
ぶりゅ
ぶりゅ
ぶりゅ
ぶりゅるるる♥
どくん
どくん
どくん
脳回路は
焼き焦げて
明滅

はあ
はあ
はあ
凛様…
いや…凛
愛してるよ
あ…あい…
じで…る…
はあ
はあッ…
はあ
はあ
はあッ…
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
ドロォッ
ゴポォ
……ッ!!
……ッ!!
ビクン
ふッ…
う
ッ…
あ
あ…う

こうして…

倒錯の世界へ
堕ちていったふたり

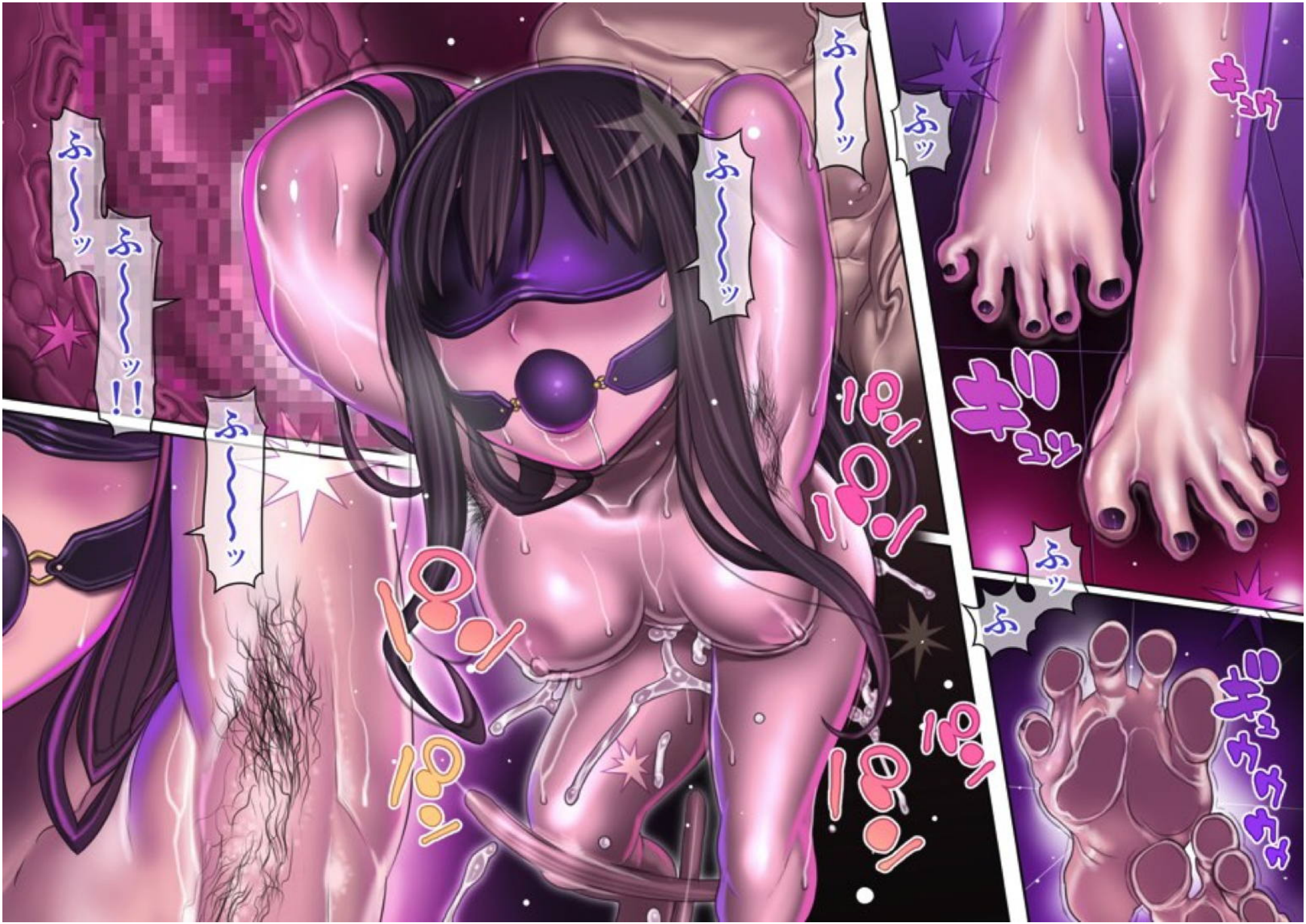
その後の事は
誰も知らない―…

わかっていることは
たったひとつ…

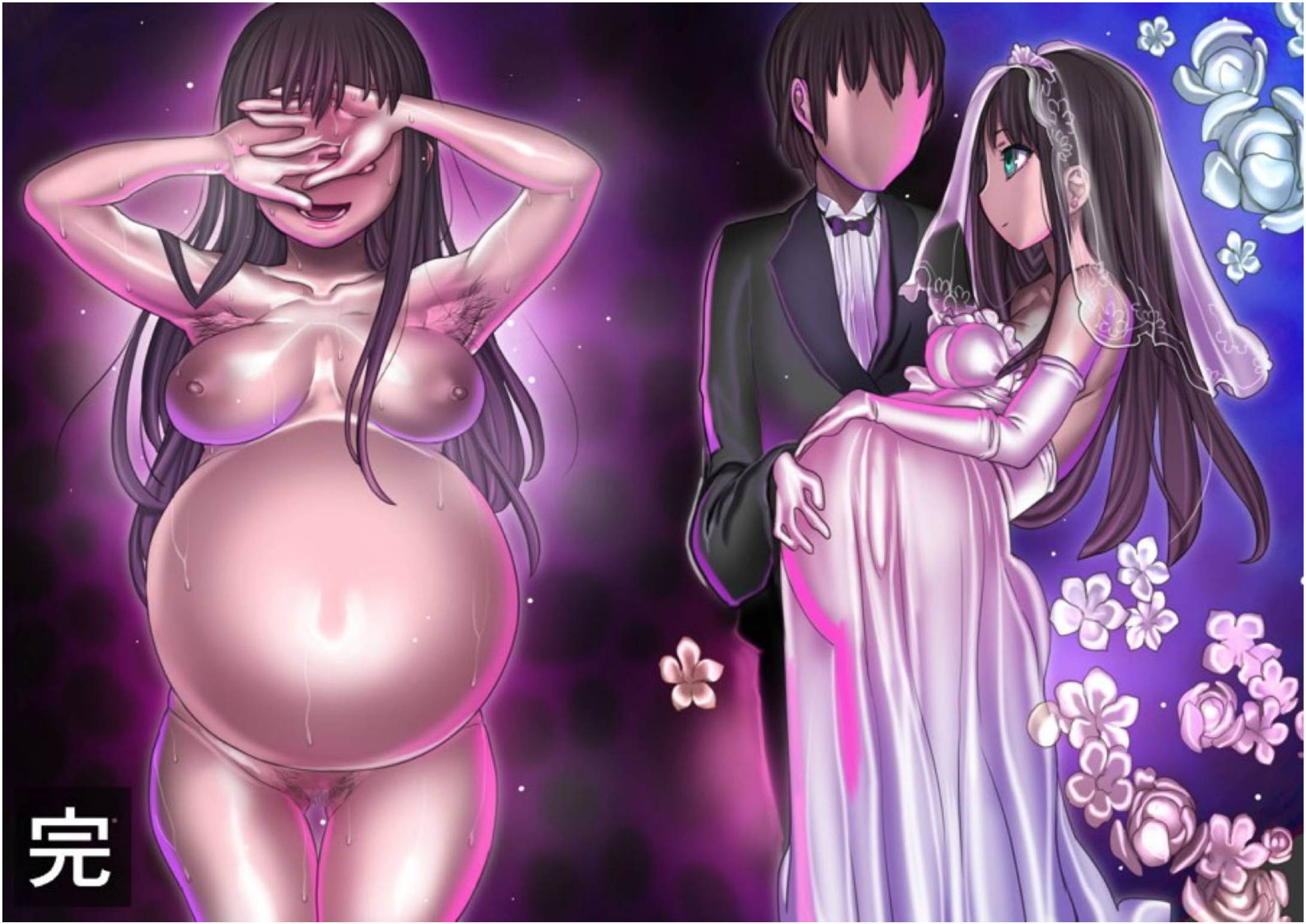
この世界にはもう
『渋■凛』という名の
アイドルは生まれない

終

エピローグ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
ぶぅ〜〜ッ!!
ぶぅうぅ〜ッ!!


ふ～～ッ
ふ～～ッ
ふ～～ッ
ふ～～ッ!!
ふ～～ッ
ふッ
キュウ
ギュッ
ふッ
ふ
ギュウウウ

ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン


完